

高確率要請連鎖技法における要請の類似性が 応諾行動に及ぼす効果 (2)

Effects of the similarity of requests in the high-probability requests sequencing technique on compliance by young children (2)

井垣竹晴
(流通経済大学)

Takeharu IGAKI
(Ryutsu Keizai University)

Key words: high-probability requests sequencing, noncompliance, behavioral momentum

問題と目的

教室を移動したり、食器を片付けたりする行動は、一般に望ましいものであるが、児童や発達障がい児・者にとっては応諾するのが難しい。このような行動は非応諾の問題として研究されてきた。非応諾を扱う技法の一つとして、行動モメンタムの概念をもとにMace et al. (1988)が考案した高確率要請連鎖と呼ばれる技法は、その効果の高さから近年注目を集めている。この技法は、応諾されにくい低確率要請の前に、握手やハイファイブといった簡単に遂行できる要請（高確率要請）を提示して、低確率要請の応諾率の増加を目指すものである。

この技法については、効果を高める要因や、他の技法との比較など、数多くの研究が行われてきたが、基礎メカニズムについての研究は少ない。特に、高確率と低確率要請間の類似性が、低確率要請の応諾率に及ぼす効果については、実験変数として取り上げられることはなかった。それを踏まえ井垣 (2013) では、小学生1名を対象に、時刻を答えさせる課題を低確率要請として、要請の類似性の効果を検討した。結果として、要請が類似しているほど、効果が高いことが示された。しかし参加者が1名であり、結果の外的妥当性は高いとは言えない。そこで本研究は、参加者を加え、再度、高確率と低確率の要請間の類似性の効果を検討することを目的とする。

方法

参加者 2名の女子小学生（ともに6歳）が研究に参加した。健常児であるが、学校や家庭で課題や宿題に集中して従事しないことが教師や保護者から報告されていた。

手続き 高確率と低確率要請の質を類似させる類似条件と類似させない非類似条件を設定した。各条件とも、ベースライン期の後、介入期へと移行する反転法を用いた。ベースライン期では低確率要請のみが提示され、介入期では高確率要請が3回提示された後、低確率要請が提示された。

親や教師からの報告をもとに低確率と高確率要請を分類した。低確率要請として、時刻を答えさせる課題（時計の絵を提示して時刻を回答する）を用いた。高確率要請として、類似条件では、数字で示された時刻を口頭で回答する課題を、非類似条件では、ハイファイブと握手、および身体の一部を触ることを用いた。

効果の指標として、潜時（要請課題に従事するまでの時間）と課題従事時間を用いた。潜時と課題従事時間が減少することが高確率要請の効果があることを示す。

実験は参加者の住居で行われ、発表者のゼミに所属する学生が遂行し、発表者もオブザーバーとして立ちあつた。

結果

図1および図2に、両参加者の、潜時を測度とした場合の類似・非類似条件における高確率要請の効果を示す。類似・非類似条件ともに、ベースライン（低確率要請のみ）よりも、介入期（高確率要請＋低確率要請）において、潜

時が減少する傾向が、両参加者においてみられた。しかし非類似条件よりも、類似条件において、潜時のより大きな減少が見られた。

課題従事時間に関しては、井垣 (2013) と同様に、両条件ともベースライン期と介入期で課題従事時間に違いはみられず、介入の効果は確認できなかった。

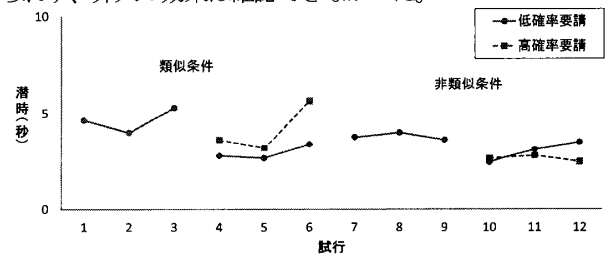


図1 参加者Aの両条件における高確率要請の効果

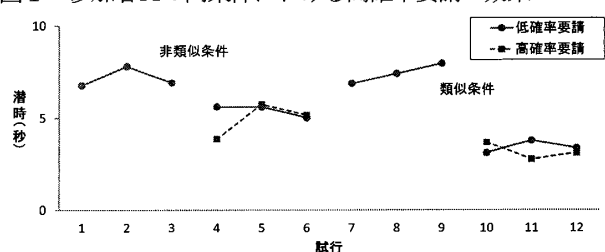


図2 参加者Bの両条件における高確率要請の効果

考察

潜時を測度とした場合、類似・非類似条件とも、高確率要請を先行提示した介入期において、潜時が減少することが示され、潜時を用いた先行研究と同様の傾向が本実験でも確認された。また類似条件において、より大きな潜時の減少が見られたことから、要請が類似している場合は、高確率要請の効果が明確に示されたと言える。一方、課題従事時間を測度とした場合、明確な違いは確認されなかった。Mace et al. (1988)では、高確率要請によってシャワーを浴びる時間が短くなるなどその効果が確認されている。課題従事時間に関して本研究でなぜ効果が確認されなかったのか、今後検討を加える必要がある。また本研究で用いられた時刻を答えさせる課題は、先行研究にも例がない課題であり、この課題が応諾をめぐる研究課題として適しているかどうかは今後検討の余地があるだろう。

引用文献

- 井垣竹晴 (2013). 高確率要請連鎖技法における要請の類似性が応諾に及ぼす効果 日本心理学会第77回大会
Mace, F. C., Hock, M. L., Lalli, J. S., West, B. J., Belfiore, P., Pinter, E., & Brown, D. K. (1988). Behavioral momentum in the treatment of noncompliance. *Journal of Applied Behavior Analysis*, 21, 123-141.